

2012(仏暦2555)年11月号 (第81号)

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行

浄土真宗本願寺派
万行寺 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾461-1

電話 0267-67-2460



■住職法話

みな等しく「釋しゃく〇〇」

■仏事のイロハ

法名は生きている時に授かる

■住職 子育て日記

■本願寺の本 「新・仏事のイロハ」

■編集後記

Photo

柿も秋の味覚です。先日、佐渡からたくさん柿をいただきました。長野市に居た頃、寺の境内に柿があり、よく食べたことを思い起こしました。長野市の方に聞くと、今年は、夏の気候不順で全体に実が少ないようです。

住職 法話

みな等しく「釋〇〇」

あるご門徒のお宅にお参り

に伺った時の話しです。読経

後のご法話に「法名」につい

てお話しをしたところ、その

後の雑談のなかである方が、

法名は生前に頂くものである

ことが住職の話で初めてわか

ったと言うのです。それに続

けて「では住職にも法名があ

るのでしようか」と聞かれま

した。「もちろん！私にも

『釋信充』という法名があ

ります」と答えると、「住職

ですから、さぞ素晴らしい法

名なのでしよう」と言われて

しまいました。

「そんなことはありません。

住職であろうと同じ仏弟子と

しての名のりですから、何ら

皆さんご門徒と変わりありま

せんよ。」と答えました。

『増一阿含經』というお經

に「四河海に入れば元の名な

し、四姓沙門に帰入すれば齊

しく釈氏を称す」という文が

あります。お釈迦さまの時代

のインドは、生まれによって

司祭・王侯武士・庶民・奴隸

といった四つの身分と、更に

その下に不可触民と呼ばれる

階層に分けられていました。

カースト制度という厳しい身

分社会によって成り立ってい

ました。四つの河も海に流れ

れば元の名はなく、海の一語

になつてしまいます。同じよ

うに仏門に入れば身分など関

係なくお釈迦さまの弟子なの

です。お釈迦さまはカースト

制度を否定されました。この

文が法名の起源とされていま

す。

日本にも身分による差別の

時代がありました。それが、それ

ならつて浄土真宗の法名にも

差別の時代がありました。表

向きは同じ「釋〇〇」を名

のりですが、字により差別を

していました。また、戦時中

は他宗にならつて字数などに

より位をつけていた時代も

ありました。そういった時代

を反省し、現在では法名の本

来化がすすめられています。

(残念なことに、これには各

住職の思いきった決断が必要

で、なかなかすすんでいない

のが現実です。)

「住職」という素晴らしい

身分だから特別な法名を頂く

わけではありません。同じ仏

法を抛り所とするものとし

て、みな等しく「釋〇〇」

を名のるわけです。それは、

平等な社会を目指そうと自ら

確認する意味でも必要です

し、他へ向けての宣言でもあ

ります。私も、「釋」を名の

ることの意義をあらためて味

わわせていただきました。



仏事のイロハ

法名は生きている時に授かる

いるのです。

確かに、亡くなった時に、お手次ぎのお寺のご住職がその方に法名をつけ、葬儀に臨まれるケースが多くあります。しかし、それはあくまで「緊急」の処置で、本来の姿ではありません。

そもそも、法名というのは「仏法に帰依した人の名前」(キリスト教のクリスチャン

「ご本山で法名をいただいたら」と、あるご門徒に勧めたところ「えっ？あれは死んでからもらうのじゃないのですか」と聞き返されました。「釋○○」という法名は「死んでからの名前」と思っている方が

ネームのようなもので、主に本山で行われる帰敬式(おかみそり)を受けた人に対して、ご門主から授与されるものなのです。つまり「仏教徒としての自覚を持って生きている間に授かるべき性質のものです。

葬儀の時、導師のご住職が「おかみそり」を行うのは、生前、こうした帰敬式を受けることなく亡くなったからで、ご門主になり代わって行っているのです。

「それでは葬儀の時も、別



帰敬式(おかみそり)

に俗名のままでよいのではないかと「言われる方があるかもしれません。しかし、浄土真宗の教えからすると「亡き人は阿弥陀如来のお救いによってお浄土に生まれ、仏さまになられている」のです。そうした故人を偲ぶ時、俗名でなく法名がふさわしいと言えますよう。

ところで、浄土真宗では、「戒名」という言い方はいたしません。なぜならば、戒名というものは、自力修行をめざし受戒した人に対して授けられる名前であり、自力修行や受戒を必要としない浄土真宗にはそぐわないからです。

まだ法名をいただけないご門徒は、できるだけ早い機会に帰敬式を受け、いただいてほしいものです。そして「家が門徒」から、「私が門

徒」となって下さい。

なお、帰敬式は本山で、通常、特定日を除いて毎日、晨朝後と午後一時半から行われます。

ポイント

- 法名は死んでからの名前ではない。仏教徒としての名前。
- 帰敬式を受け、いただく。

「仏事のイロハ」末本弘然著 本願寺出版社刊より」



～住職 子育て日記～

おかげさまで我が家のひめ姫も来月で1歳になります。とにかく何にでも興味を持って、たとえば、ティッシュペーパーが好きで、写真はポケットティッシュの中身をみんな取り出してひろげているところです。(大人からするとイタズラにしかみえませんが…)何はともあれ、この1年無事に元気に成長してくれたこと、おかげさまと感謝するのみです。



昨年、“愛珠”と書いて「まなみ」と命名しました。この“珠”という字は、古来装飾品に使われたりする宝玉といった意味があり、お経にも大切な字として使われています。如来さまは、闇の中で悩み苦しむ私たちを、宝玉の輝きのように光で照らして下さるというように使われ、私たち夫婦にとりましても、正に宝であるという意味が込められています。

～本願寺の本～

「新・仏事のイロハ」

末本弘然 著

本願寺出版社 刊 定価:630円(税込)

この寺報でも、毎回お世話になっています「仏事のイロハ」が、時代に合わせた内容で一部加筆修正をしてリニューアルされました。23年前の初版ですから当然のことだと思います。



編集後記

寒くなつてまいりました。今年も、寒い冬になりそうです。◆子供に流行病をさせないようにということが心配で、親子でインフルエンザの予防接種を受けました。考えてみると、注射自体、何年かぶりということがわかると思ふ感じが受けました。子供がいると、こんなことまで変わってくるものです。◆私は、外出時、予防のためのマスク着用が常になりましたが、病院に行くとき咳き込みながらマスクをしていない人が目に付きます。咳せきマナーをお願いしたいものです。

